

「さわやか信州省エネ大作戦」（仮称）のイメージ

1 基本的な方向性

（1）基本的な考え方

- 当面の節電・省エネ対策を進めるに当たっては、まず、中部電力管内の電力需給見通し等について県内各界各層が情報を共有することが重要。
- 節電・省エネ機運の高まりを契機に、特にピークカット対策を中心に、前向きな節電・省エネ対策を講じていくことが必要。特に、未来志向型のライフスタイル、ビジネススタイルの転換につながるものを選択していくことが肝要。
- 一方で、節電・省エネ対策は、県民生活や県内経済に影響を与えない範囲で行うことが必要。また、県内経済の活性化や生活の質の向上に資するものになるよう配慮。

（2）節電・省エネ目標

- 県民総ぐるみの運動を展開するに当たっては、共通目標の設定が有効。
- 中部電力管内の電力需給状況を鑑みれば、1日の最大需要期における電力需要の抑制（ピークカット）に係る目標の設定が適当。
- 具体的な目標数値については、今後の中部電力の電力需給対策の状況を踏まえるとともに、東北・東京電力管内の状況とのバランスを考慮して検討することが必要。

2 基本となる取組

（1）節電・省エネメニューの作成と普及

様々な省エネの取組事例（特にピークカットに資するものを重点的に）を収集整理し、県内の各主体が取り組むべき節電・省エネのためのアクションメニューを作成、普及。

（2）信州型ピークカット社会実験の実施

6月22日から8月末日にかけて行うライトダウンキャンペーン中の特別実施日である、6月22日（水・夏至）、7月7日（木・七夕）に加え、長野県独自の実施日として、7月26日（火・梅雨明け後・夏休み前）に、昼

夜各 2 時間（14：00～16：00、20：00～22：00）に徹底的な節電を試みる社会実験を実施。

3 家庭における節電・省エネルギー対策

（1）賢く行うピークカット対策の実施（景気浮揚にも貢献）

【例】○打水や緑のカーテンによりピーク時間帯のエアコン使用を抑制

○ピーク時間帯は、買い物、イベント、野外活動などに外出。

（2）プレミアムエコポイント事業の実施

信州エコポイント事業において、特定時期（7～9月、12～2月）に省エネ活動を行った県民に対して追加的なエコポイントを付与。

（3）信州豊かな環境づくり県民会議との連携

省エネに関するポスター・標語を児童等から募集し、優秀作品に知事賞を授与。

4 企業における節電・省エネルギー対策

（1）業態に応じた節電・省エネ対策の実施

一定の方針等を示し、経済団体等を通じ、業種・業態に応じた対策を実施。

（2）事業者の節電・省エネルギー対策の支援

○環境部所管の「省エネ指導事業」、「省エネ設備等導入事業補助金」等による支援。

○商工労働部所管の「中小企業環境対応強化支援事業」、「中小企業融資制度資金（環境調和向け）」等による支援。

（3）大規模事業者への対策の呼びかけ

5 節電・省エネルギー対策を通じた観光振興

（1）全県的な統一キャンペーンの展開

涼しい信州の観光地への誘客や宿泊施設ごとの節電・省エネルギーの取組を促す統一キャンペーンを展開。

宿泊施設や観光地が、心地よい省エネ・楽しい省エネにみんなで行き届いた宣言。

【例】スターウォッチング、水辺遊び、風鈴でお出迎えなど

(2) 夏季休暇の分散化、長期化に合わせた滞在型観光の推進

- 電力需給緩和のための夏期休暇の分散化、長期化に合わせ、着地型・体験型メニューを組み込んだ長期滞在型宿泊プラン及び省エネルギー推進宿泊プランを造成。
- 首都圏・中京圏等へ大型プロモーション活動を展開。

6 県機関における節電・省エネルギー対策

(1) 率先実行計画に基づく取組の徹底

【例】○ホール、廊下の消灯の徹底（必要最小限に制限）

- 定時退庁（ノー残業デー水・金）午後6時の一斉一旦消灯徹底
- エレベーターの運転台数制限時間の拡大
- 照明設備のLED化等の一斉検討

(2) 県有施設における新たなピークカット対策の検討

- 電力ピーク時の新たな節電・省エネ目標の設定の検討
- 公共施設の開庁時間の変更等の検討

7 その他

(1) 電力需給逼迫警報の検討

(2) 節電広報キャンペーンの検討（メディアを通じた県民への呼びかけやポータルサイトの構築等）

(3) 家庭や学校現場での節電・省エネ教育の推進

(4) 企業や家庭における夏季休暇の分散化・長期化の促進